

公表

令和6年度 保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	Nursing Home MARIMO		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)		(回答数)
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重度心身発達障害児、障がい者対応の施設であり、移行期の利用者様への対応ノウハウを理解できている。	必要に応じて他職種のスタッフにも相談し、必要な課題解決を行う事を意識して行っている。	適宜行政との連携も行う。
2	障がい児・障がい者の福祉用具、装具の知識がある為、保育所等訪問支援で介入する際にも必要であれば対応可能。	訪問時に必ず福祉用具や装具の状況などを確認し、問題がなければ確認している。	基幹病院や、義肢装具士と連携を密に取る。また、装具や福祉用具について対応できることを関係者に伝えていく。
3	地域の基幹病院との連携が十分とれている為、適宜迅速に連携を取る事が出来ている。	ご家族、訪問先の先生などに受診時の事を確認し、適宜連携を取るように意識している。（訪問支援上連携が必要な場合）	基幹病院などに連携を取れることを訪問先施設にしっかり周知を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	開始したばかりで訪問件数も少なく、経験値が少ない。	地域へのアナウンスが積極的に行えていない。	必要な所に必要な分訪問が出来るように計画的にアナウンスを行っていく。 経験値に関しては社内の他事業所で実績を積んでいる事業から学ぶ機会を得るようにする
2	訪問時間に制約があり、沢山の訪問支援の利用者を抱える事が難しい。	専任の療法士により、訪問支援業務を行っている為、利用者数の制約ができる。	専従の療法士を置く事は難しいが、業務整理を行う事で訪問支援の枠を検討することが可能。
3	訪問施設の中で他の先生も巻き込んだディスカッションが行えていない。	訪問日数もまだ少なく、担当の先生とのディスカッションで十分だと考えていた為。	今後拡大カンファレンスなどの必要性も訪問支援の中で見出す関りを意識して行っていく。